故郷（1）

魯迅
竹内好 訳

厳しい寒さの中を、※二千里の果てから、別れて二十年にもなる故郷へ、私は帰った。

もう真冬の候であった。そのうえ、故郷へ近づくにつれて、空模様は怪しくなり、冷たい風がヒューヒュー音を立てて、船の中まで吹き込んできた。※苫の隙間から外をうかがうと、鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっていた。①覚えず寂寥の感が胸に込み上げた。

ああ、これが二十年来、片時も忘れることのなかった故郷であろうか。

私の覚えている故郷は、まるでこんなふうではなかった。私の故郷は、もっとずっとよかった。その美しさを思い浮かべ、その長所を言葉に表そうとすると、しかし、その影はかき消され、言葉は失われてしまう。やはりこんなふうだったかもしれないという気がしてくる。そこで私は、こう自分に言い聞かせた。もともと故郷はこんなふうなのだ——進歩もないかわりに、私が感じるような寂寥もありはしない。そう感じるのは、自分の心境が変わっただけだ。なぜなら、②今度の帰郷は決して楽しいものではないのだから。

今度は、故郷に別れを告げに来たのである。私たちが長いこと※一族で住んでいた古い家は、今はもう他人の持ち物になってしまった。明け渡しの期限は今年いっぱいである。どうしても旧暦の正月の前に、住み慣れた古い家に別れ、なじみ深い故郷をあとにして、私が今暮らしを立てている異郷の地へ引っ越さねばならない。

※二千里…今の中国の一里は約五百メートル。ここでは遠い距離を表している。
苫…スゲ・カヤなどの草を編み、舟や小屋などにかけて雨露をしのぐもの。
一族…大家族制度では、血縁のある数家族が集住し、共同で生活する。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「覚えず寂寥の感が胸に込み上げた」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 真冬の帰郷だったため、あまりに寒さが厳しかったから。

イ 故郷が、記憶にあるものに比べあまりにわびしかったから。

ウ 片時も忘れることがなかった故郷にようやく到着したから。

〔　　〕

(2) ――線②「今度の帰郷は決して楽しいものではない」とあるが、なぜ今度の帰郷は楽しいものではないのか。適当なものを選びなさい。

ア 厳しい寒さの中を、二千里も離れた地から帰郷したから。

イ 故郷が、覚えていたものとあまりにも違っていたから。

ウ もともと故郷は進歩のないものだと思い知らされたから。

エ 家を明け渡し、故郷に別れを告げるための帰郷だから。

〔　　〕

(3) 本文の内容に合うものを、二つ選びなさい。

ア「私」が故郷に帰ったのは真冬の頃であった。

イ「私」が故郷に帰ったのは今年の正月以来であった。

ウ「私」は今年まで、一族とともに故郷に住んでいた。

エ「私」は今、異郷の地で暮らしを立てている。

〔　　・　　〕